

第1節 鉄筋コンクリート造擁壁標準構造図

1 標準構造図を使用するにあたり注意事項

- (1) 安定計算の土圧作用位置は、縦壁の背面として計算をしています。この方法は、縦壁背面の地表面が水平な場合のみに用いられるため、地表面に法形状で斜面を築造する計画には使用できません。
- (2) フェンス荷重は 2.0m 以上のタイプに、擁壁天端より 1.1m の位置に 1.0kN/m の水平荷重を見込んで計算していますが、2.0m 未満のタイプに擁壁縦壁にフェンスを直接設ける場合、及び 2.0m 以上でも上記の条件に適合しない水平荷重のフェンスを設ける計画には使用できません。
- (3) 逆L砂質土タイプは構造計算において地震時に受働土圧を考慮しています。使用する場合は擁壁前面土が乱されていないこと、確実に受働土圧を考慮できる形状であり、かつ、将来にわたりその形状が維持できるものであることが条件となります。詳細は築造地の市と協議すること。
また、開発許可申請等の際は、土地利用計画図にもその旨記載のこと。
- (4) 地上高さ 3.0m 以上のタイプにおける設計条件において、支持地盤の粘着力を 30kN/m²としている擁壁については、土質試験を行い粘着力の確認すること。